

# 東村山市民新聞



第210号  
2025年6月10日  
発行  
東村山市民新聞社

**パワハラ横行、  
マイナンバーカード  
強要、他にも**

## 渡部市長の長期政権の弊害が顕著に

# 東村山市役所は大丈夫か？

朝木議員は、9月議会の一般質問で、

東村山市役所のパワーハラスメント（パワハラ）の実態について取り上げ、パワハラを受けていた職員が自死していることや、職員からパワハラにより精神を病み、「助けて欲しい」という内容のメールが複数寄せられたことなどから、市役所内のパワハラの実状や対応について質した。不知を決め込む市の答弁から事態を重くみた市議会は、議員全員で「市役所内のパワーハラスメントを根絶することを求める決議」を提出し可決された。

これを受けて、決議で求めていた「ハラスメントに関する無記名アンケート」が昨年末に実施され、結果が今年4月に公表されたが、予想通り、過去5年以内にハラスメントを受けた職員は37.7%に上り、他の自治体よりかなり高い数字となった。逆にアンケートの回収率は他自治体より低い結果だ。

内容を見ると、4割近い職員がハラスメント経験者であり、中に

は受けたハラスメントが「身体的攻撃、殴打、足蹴り、物を投げつける」という職員が9名もいた。また、ハラスメントを見たり相談を受けた職員は51%と半数以上だが、市の相談窓口へ訴え出た職員はたった7人との回答だった。いかに閉鎖的で、隠ぺい体質であるのかが明らかとなる結果となった。

しかし、この結果を受けての対策は、窓口業務を委託している「パソナ」にハラスメントの相談窓口も委託するという事だけで、現在苦しんでいる職員を何とかして救おうという意志は感じられず、職員からは「さっさと絶望した」という声が届いている。

**マイナンバーカード  
取得を強要!?**

公民館などの公共施設予約システムが3月に一斉変更され、マイナンバーカードを持たない市民は利用できない事態となっている。

今年2月になって突然、利用団体代表者など宛に、「3月から予約

システムが変更になり、利用にはマイナンバーカードが必要」とのメールが届き、驚いた利用者たちが大混乱する中で、システム変更を強行。告知から1ヶ月足らずのシステム変更で、マイナンバーカードを持たない市民は、インターネットでの予約ができないばかりか、窓口に行かないと施設の空き状況すら確認できないという、大きな不利益を被っている。

3月議会で朝木議員がこの混乱とシステム変更によってマイナンバーカードを持たない市民への不利益について市の考え方を質したが、担当部長の答弁が三転三転して混乱し、なんと議場に課長が登場して答弁するという、前代未聞の珍事態に。

なぜこんな拙速なシステム変更になったかといえば、年度内の補助金交付期間に間に合わせるためだったとのこと。マイナンバーカードを持たない利用者はインターネットでの施設の予約ができないどころか、部屋の空き状況すら見ることができないなど、明らかに不利益を被っているが、「窓口に来てくれれば対応しているので不利益はない、またロコフォームというオンライン申請・届出等のシステムで施設の職員に予約を依頼することもできる。」との答弁。市民の

## インサイド レポート

### 速報

# 市議会議長に朝木直子議員 東村山市議会初の女性議長に!

5月30日に開催された6月議会本会議における議長選挙で、草の根市民クラブ・朝木直子議員が議長に選出された。

東村山市議会では、これまでずっと自民党・公明党の議員が議長を務め、自民公明以外の議長は東村山市会議史上初。また、女性の議長も東村山市議会議史上初となる。

今年任期2年目を終えて折り返しとなり、議会人事の改選の年だが、今回は自民党の土方桂元議員が都議選出馬のため辞職したことで、自民5人・公明6人となり、自公で24名中11名となっていた。

そんな中、今回の議長選挙では自公以外の全議員が朝木議員に投票し、  
朝木直子 草の根市民クラブ 13票  
石橋光明(公明党) 11票



新しく就任した朝木直子議長と佐藤まさたか副議長

という選挙結果となり、公明党は市議会第一党であるにも関わらず、議長選挙に敗れる結果となった。

背景には数で押し切る自民・公明の議会運営に対する他の議員の不満が爆発したということが背景事情にある。今回の議長選では、公明党の議員は「公明党に投票して

また、副議長も無所属の佐藤まさたか議員が選出され、議長・副議長共に無所属の議員が選出された。今後は少数派の意見もしっかりと反映される民主的な市議会へ大きく変わる転機となることが期待されている。

～2面へ続く～

利便性をまったく無視し、補助金をもたらうことに必死の市政運営ばかりが目につく。

### 公民館のホール予約を反故に?!

来年1月〜4月までの中央公民館大ホールの予約団体に、市から「予約していただいたホールが使えなくなった」という電話連絡が突如5月の第3週頃にあり、大混乱となった。公民館のホールは1

年前から予約が可能のため、各団体とも来年の公演やイベントの計画を立て、年明けには来年の予約を入れていく。演奏者や各関係者の日程を押さえて、周知やチラシ作成にとりかかる時期だ。

予約を反故にしたいという市側の理由は「メンテナンス工事を1月〜4月頃に入れたいから」というもの。ホールで開催する演奏会やイベントなどは、場合によってはチケットの売り出しなどの関係も

あり、予約のキャンセルは大きな混乱を起こす。よって通常ホールの運営は、定期的に一定期間予約を中止し、その間に機材のメンテナンスや必要な工事を行う。しかし、東村山市はこれを行わず、「年度初めに業者に点検してもらったから、早くメンテナンスをした方が

良い」と言われたので1月〜4月に工事を入れるため、予約をキャンセルしてもらいたい」と突然予約団体へ連絡。

### 子安じゅん VOICE

#### 「子ども食堂への支援費予算化!」

私が昨年的一般質問で2度取り上げ、子ども食堂への支援を要望しましたが、2025年度予算で、この支援が実現しました。すさまじい物価高騰の中で、これまでにんの支援もなく運営を続けてこられたボランティアの方々からは喜びの声をいただきました。

子ども食堂への支援は、すでに2018年から東京都が補助金事業として開始しており、2024年には多摩26市中少なくとも22市は支援を行っていましたので、東村山市はまたも出遅れた感があります。

2023年に市内小中学生を対象に行った調査によると、生活困難層といわれる世帯は全体の約2割。厚生労働省の調査結果では日本のことのも貧困率は11.5%ですので、東村山市は高い方といえます。調査時に比べて物価はさらに高騰しており、

現状は一層深刻で待つたなしです。

今年度予算では、「子ども食堂等推進事業費」としてようやく192万円が計上された一方、昨年可決された条例改正により、職員給与の増額分約2億4700万円が計上されていることはなんとも皮肉です。その他、デジタル地域通貨事業・インペイ

には2年間で3億円超を費やしたにも関わらず、直近の利用率は市民のたった33%程度。利用率の少なさに焦ったのが、再生可能エネルギー電力代替促進事業や子どもの社会参画事業などは、ポイント付与の恩恵を上げるためにはインペイを必須にするという、強行策が目立ちます。

物価高騰に苦しみ緊急支援がもたらわれている状況で、市民に本当に必要な施策に対してお金が使われているのではありませんか。

インペイの利用率よりも、2割の生活困難世帯や物価高騰に苦しむ



#### 子安じゅんプロフィール

- ▼1983年大阪府豊能郡能勢町生まれ。能勢町立歌垣小・能勢東中・府立池田高・創形美術学校卒
- ▼学校職員・会社勤務・新聞編集員
- ▼政治と宗教問題への関心から、矢野ほづみ議員の遺志を継ぎ、政教分離実現のために闘うことを決意。東村山市民新聞編集員・地元FM局スタッフ・高齢者団体役員
- ▼2023年4月の選挙で初当選・現在一期目の市議会議員

X(旧Twitter)でも情報発信中!



子安じゅん HP



市民に目を向け、優先して支援策をうってほしいものです。

### 朝木直子 VOICE

#### 「成果主義の渡部政権の弊害が…」

あまりの非常識さに、各団体とも怒り心頭であるとともに、途方に暮れる団体も。東村山市には他に代替の施設もなく、今からでは年内に予約を変更することもほぼできない。

多くの議員にも抗議の声が届いたことから、すぐに市はこの予約

1面の記事の通り、最近の市役所への市民からの苦情や意見、情報提供などを聞く、東村山の行政は大丈夫か、と不安になる内容が増えています。

窓口や、市内の施設などを民間事業者へ委託し、市民と接する場が激減していることに加え、渡部市長の「成果主義」によって、職員も余裕がなく、他人のことにまわってられないという空気になっている、複数の職員から話があります。

ハラスメントのアンケート回収率がほかの自治体に比べても低いことや、回答者の半数以上がパワハラを目標撃したり相談をつけているのに、一切これらが表に出てこないことや、身体的攻撃、殴打、足蹴り、物を投げつける」という、社会で許されないパワハラを受けた職員が9名もいるのに、大きな問題となりなかつたことも、東村山市役所がいかに閉鎖的で隠ぺい体質であることの裏付けとなっています。

これらについて、渡部市長一人の責任であるとは言えませんが、少なくとも

キャンセルを取りやめ、「やっぱり予約通りに利用できません」と各団体に連絡を入れたものの、突然の予約キャンセルに混乱し、関係者と対策を協議し始めていた団体もあり、また混乱する、ということも行政の運営とは思えない、お粗末な事件となった。

も渡部政権の長期政権による閉塞感が大きな原因となっていることは間違いない。

#### 朝木直子プロフィール

- ▼1967年東村山市諏訪町生まれ/化成小・二中・都立武蔵高・慶應大卒
- ▼母・明代議員の殺害事件後、遺志を継ぎ、弱者の生活を守り、税の使途、行政腐敗を監視するために闘うことを決意。謀殺事件究明に28年
- ▼憲法学習会広渡塾一期生・東村山市民新聞代表・現職市議会議員(7期目)/社会福祉法人理事/政治と宗教を考える会主催/地元FM局スタッフ/憩の家委託費問題を追及し予算を撤回させる。これまでに、期末手当2割増分など、議員報酬から606万4410円を返上。

X(旧Twitter)でも情報発信中!



朝木直子 HP

